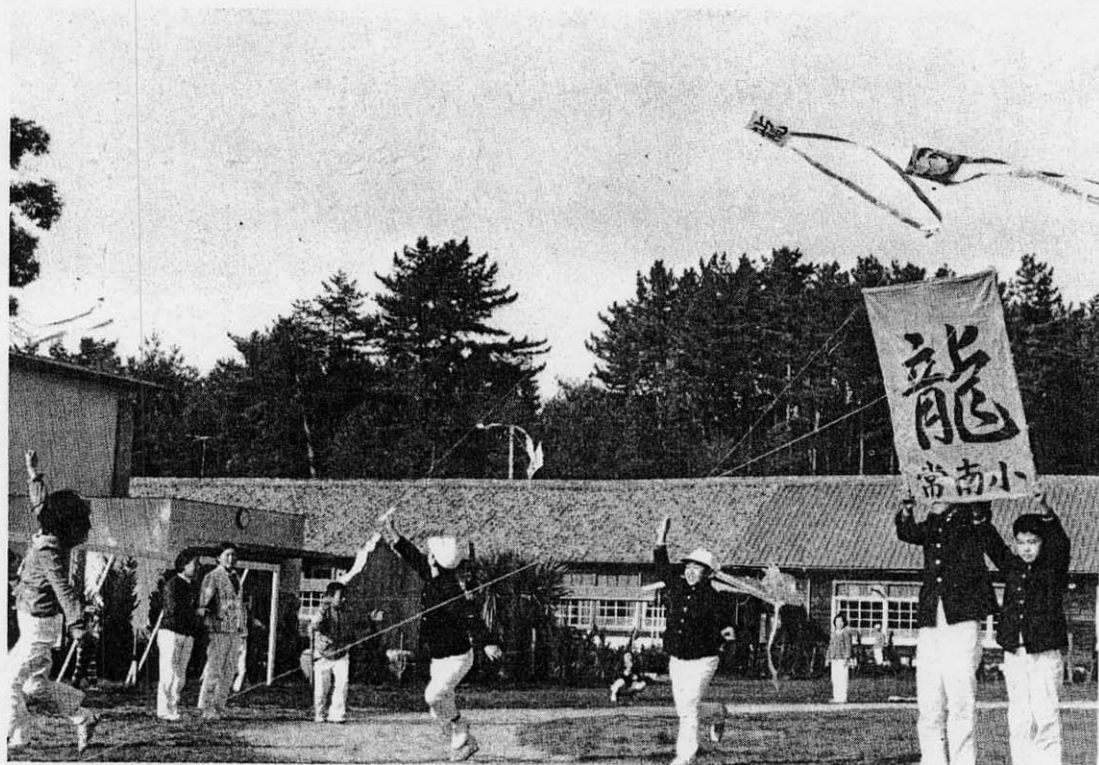




児童には気ままに描かせる
がいい。彼が表現に関して質
問をはじめたら、技巧化した
範を示さずに、技巧を発見す
る事を教える。

山本 鼎
(自由画教育より)

昭和51年1月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会
印刷
研文印刷社



(昇 龍——常盤南小)

— 教育随想 —

画 竜 点 睛

伊藤郷平



竜の姿は画いたものの何か一つ肝腎のものを失っているといった疑問は拭えないし、根づよく浸みこんでいることは否定できない。

張僧遙の竜は見事な出来ばえであったが眼玉が入れてなかった。求められて眼玉をかき入れると、竜はたちまち風と雲をよびおこして天に昇ったという。画竜点睛の語が造られいまも使われている。

教育界の竜の絵にはいつ眼玉が点じられるのであろうか。また眼玉とは一体何であるのが。竜に二眼あるように二点だけ述べよう。左眼は「ミニマムエッセンス」右眼は「ふるさと心」である。

教育は未来をひらく力で、創造の教育が第一だが、情報はらんの中量におぼれて核となる知識が埋没してしまった。核は量ではない十方に伸びる基礎力である。モノの豊かさの中で自然とふるさとの心が見失われている。母なる川矢作川は人びとにとつてたしかなものとして受けとめられているのであろうか。

わたくしはもの心ついて六十年、この間、日本もわが家も貧しかった。しかし清貧の中につねに内省と真の教育があったように思っている。清貧も亦佳しである。地中の竜は珠玉をさがす。教育に一つ点睛をしようではないか。

(前愛知教育大学学長)

ことしは十二支の「辰」である。辰は中国の竜、岡崎にも竜の地名が多い。旧岡崎城も「竜城」とい、刈谷は亀城、西尾は鶴城で西三河一帯はつる、かめ、りゅうというめでたさを表わす三城が要となっていた。新年の所見に竜に因んだことでも書かしていた。

竜は、中国では天をかけ、地に潜む変幻自在の靈獣とされている。天子の位を竜位、顔を竜顔、徳を竜徳といった。曾ってみた北京の紫禁城の大理石の石段にも見事な竜の彫刻があつて守り神となっていたが、まことに印象深いものがある。

日本でも「登竜門」とか「画竜点睛」とか江戸時代には「辰巳芸者」などと竜に因んだことが使われているが、ギリシヤでは地中の財宝の守り神ともされている。

竜の思想は多雨性の東洋のもので乾燥性のヨーロッパへ伝わったというが地域性からはうなずかれる。辰巳の方角も鬼門ではない。ともかくめでたい靈獣であることには変りはない。

昭和四十年代の日本経済は、まさに天かける竜のごとく年率十五%、愛知県は十八%の伸びをつけたが、昨年から不況で、今後は六%もむつかしいといわれ、ときにゼロ成長とか減速経済といわれている。このあと十年間は地中に潜った竜を思わせるものがある。

高度成長の中で、「カネ」と「モノ」は豊かになり、われわれの生活はテレビもステレオもクルマも完備し、教育も大きく前進した。教育界も一般もたしかに大幅の

いまはむかし



通学路

道も遊び場

側溝には、水まき用の水が流れていた。ドジョウ・カニ・カワニナもいた。暑い夏の日学校帰り、ズボンをまくり上げ履き物を手にしてザブザブと溝の中を歩いていく。快い涼感が、体をくすぐる。雪の積もった朝も、心はずんだ。轍が滑走路となり、助走しては滑走の繰り返し。校門までの距離の、何と近かったことか。

がき大将は車で

がき大将ともなると、歩かずに登下校できた。時速三十キロ位のトラックにかまつて、地面を滑つて得意満面。水上スキーならぬ道スキーのスリル。新品の靴も十日とたたなかつた。

交通量は、毎時一、二台。が、荷馬車の往来は頻繁だった。空車の荷台には、ゆうに子供が三十人も乗れた。馬方に断わりもせず飛び乗って、優雅にのどかに

〈靴がよくへる岡崎の土〉

愛知教育大学がまだ岡崎にあった時、学生たちは急な坂道を、息を切らせながら登ったものである。靴が実によくへつた。大学のある先生が、
「私は中国に長かったが、細かい黄土からできている大陸の土に比べると、岡崎の土は四倍も速く靴がへるよ。」
といわれたことをおぼえている。花崗岩の主成分の石英がその原因である。

岡崎市は、地表面のほぼ三分の一が、花崗岩か、その風化したさば土からできている。まさに花崗岩は岡崎の土台石である。

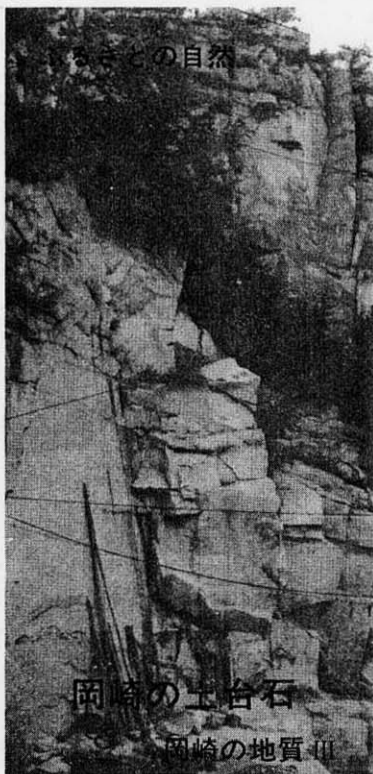
〈二種類の花崗岩〉

岡崎に住んでいる人は花崗岩を見慣れているのでごく普通の石だと思っているが、日本の花崗岩の分布はそれほど多くない。ちょうど私たちが安山岩のよい標本がなくて困るように、花崗岩のかけらがなくて授業に困っている地方の先生方も多いのである。

岡崎産の花崗岩は、細粒・粗粒の二種類に大別できる。細かい粒の花崗岩は石燈ろうや墓石などに使われ、全国的に有名な岩石である。写真は米河内町の鈴木石材採石場で、常磐方面にはこのような石切場が各所に見られる。市内で見られ

る花崗岩はほとんどこの仲間で、専門的には武節花崗岩と呼ばれている。

ところがもう一種、粒が粗く、鉱物が片麻岩のように方向性をもって並んでいる花崗岩が岡崎の北部にわずかに分布している。伊奈川花崗岩と呼ばれているこの岩石は、目が粗すぎて石細工にはむかないので、石垣の石などにしか利用されていない。この岩石は足助・猿投・小原方面に広く分布している。



〈花崗岩の誕生〉

最近、これらの岩石を含め、各地の花崗岩のできた絶対年代が多く測定されるようになった。その結果によると、武節花崗岩の生成時期は七千万年から九千万年前（中生代の末期）であるという。伊奈川花崗岩は地質関係から、それよりやや古いということがわかつている。いずれも三河地方では新しい方の花崗岩で、分布も広い。

花崗岩は地下でマグマがゆっくり冷え

固まってきたといわれる。まわりの岩石をとり込んでいたり、岩石の割れ目に入りこんでいたりするところを観察すれば高温の液体が冷え固まったのだと納得はできるが、実は花崗岩のすべてがそうしてできたとは言えない事実もあるのだそうだ。花崗岩がマグマからできたというのは有力な仮説の一つでしかないということをご存知だろうか。

〈自然の妙……岩谷山の名石〉

岡崎市の北部の岩中町に海拔約二八〇メートルの岩谷山がある。観音さまをまつる洞穴のある中腹から山頂にかけて、数十トンもあろうという武節花崗岩の巨石が点々としている。びょうぶ岩・さお岩・船岩などと名付けられ、実に見事なものである。このような奇岩ができたのは、花崗岩の風化した部分が、雨水で洗い流されてしまひ、風化していない部分がとり残されたと考えられる。いわゆる野づら石である。

山頂はとても展望がよく、晴れた日には八州を一望できるという。一度訪ねることをおすすめしたい。

（六名小 磯谷栄一）

ドライブ気分を満喫した。馬方は、おむね無口でぶつきらばう。何となく、とつきにくくて怖い人。しかし、子供のすることには寛大であった。

途中から、馬のスピードが上がると、さあ大変。家の前では飛び降りられず、そのまま隣村の坂道までまっしぐら。

馬糞も友だち

田舎道には、馬糞がよく落ちていた。登下校する集団の先頭は気がついてよけられる。後につく者こそ迷惑千万を話。意地悪の班長が、わざわざ馬糞上のコーズに移動して、誰かが踏みつけるのを心ひそかに期待しているからだ。「馬糞を踏んだ子は足が速くなる」とか言っていて、ペソをかく子を励ましたりした。

それでも、部落の人たちに対する礼儀は正しく、道ゆく人には必ず挨拶したものだ。

モンベと団杖

戦争も末期。小学生も月に何回かは、登校前に神社の清掃、参拝をすませて学校へ出かけるようになった。

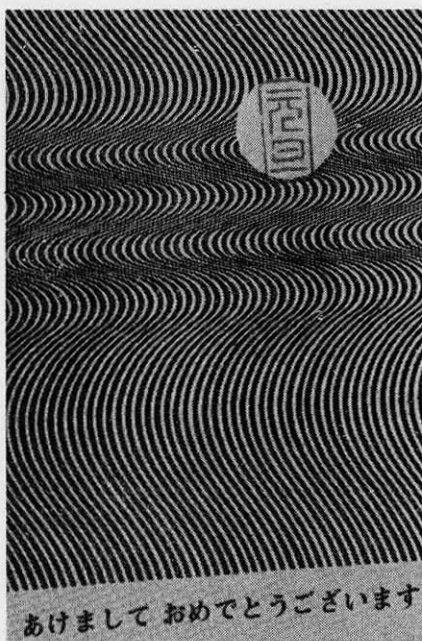
白地を国防色に染め直し、胸に大きな名札を縫いつけたシャツを着用。母親の着物をほいで作ったモンベをはき、肩から防空頭布を吊り下げた、ものものしいいでたち。おまけに女子と言えども竹筒で作った団杖をかついで、整然と登校する。途中、校長先生にでも出会うや、団長の号令が「きつ高く響き渡る。「歩調を取れ。」「捧げ銃。」」（大塚久雄・鈴木幸二先生のお話から）

新日記三百六十五日の白

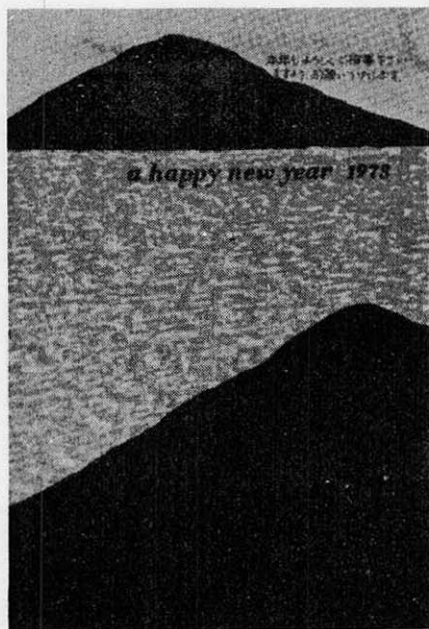
すべてが新しくなった元日、日頃便りのなかつた友人、知人、教え子の年賀状を見るのは楽しい。一枚一枚、表を見裏を見、不図在りし日の一こまが脳裏をかすめる。甘酸っぱい思い出もあろうし、ほろ苦い追憶もあろう。社長になつて驚き、ママになつたと報告した家族名に微笑む。東京から、京都から、北九州から、たどたどしい筆づかいもあれば、ユーモアの溢れた手版もある。

年賀状が、一年一度の邂逅であることもあろうし、忘れかけた遠い縁の点灯であることもあろう。

ここに掲載した九枚の写真は賀状傑作集の一部である。



▲ 権田梅芳
▶ 長谷川晴彦



▲ 安田明義
▲ 青木宏氏

賀状見てあれば彼の山かの山等

講演要旨

しあわせを招く話し方

NHKアナウンス顧問
青木 一雄

人間いつになつたつて、ほめられて悪い気はしません。親子でも、夫婦でも、嫁姑でも、先生と生徒の間も、お互いのよさを認めてほめあっていくことはいいことじゃありませんか。ほめられて悪い気はしませんよ。東京あたり非行少年少女が多くて困ります。近ごろでは小学校上級生から悪くなつています。そう、そう、小学校のチンピラから組織的な暴力団まで、横道に逸れていった者ごとことんまで調べあげていくと、いろいろな共通点が出てくるのですが、一つご紹介しますと、間違いなく言えることは必ずしかられ過ぎています。

まず、家庭がやかましい。これにおかあさんがやかましい。学校の先生がやたらにしかる。そこで教育された者が就職先でまたしかられる。つまり、あつちへ行つてはしかられ、こつちへ行つてはどなられる。自信をなくしてしまふ。どこへ行つてもしかられるんだから、おれはだめなんだと思つてしまふ。こゝなつたら人間はおしまいで、人間は精神がありますからね。自信を失うくらいこわいことないんじゃないですか。これと同じ理屈で、きょうここに集まりの方のようなピンピンしている人を病人にするこゝとだつてできるんだそうです。この前テレビで専門の大学の先生がおつしやうてましたからね、先生のよいわが子でも、素質のある若い者でも、「だめじゃないか、だめじゃないか」と繰り返していけば、本当に悪くなる。

つくら言つてもいいけど、いい点をやつぱり認めてやらなきやあ、伸びてきませんよ。やつぱりほめるところはほめなけりやあうそじやないですか。「一つしかつて二つほめ」と言いますよね。「三つ教えて四つ聞け」とよく言いますけどね、そんなものかもしれないねえ。お互い傷つきやすいですよ。わたしは一人っ子で気の弱いところがあるんですけどね、しかられつぱなしだつたら、おそらく勤続三十六年の記録はでなかつたと思ひます。しかつてほめて、ほめてしかつて……。

わたしどもは人の悪いところと生徒の間もなかなかやらない。お互い楽しいことばかりはありませぬので、そこにユーモアが必要になつてきます。笑いは

まことにケチな根性で、相手をほめると何かこちらの値うちが下がるように思う。本当にケチな根性ですよ。これはお互いの教育活動の面でも、家庭生活の面でも、商売をやつていく面でも、考えていんじゃないかと思ひますねえ。「人生は話の連続だ」とよく言われます。教育というものが、文化というものがこんなな発展してきたのは、ことばというものがあるからですよ。それによつて生活の知恵を高めていき、更に受け継いでいくんです。これをないがしろにしては私どもの文明生活は営めない、ということですよ。

人間にしかない、とよく言われます。その通りですよ。ユーモアというものを潤滑油として、家庭を円満に、学校をなごやかに、町内を明るくということになるでしょう。

要は、縁あつて生まれたこの祖国日本が、この辺でお互いの力によつて少しづつでも精神的な面で立ち直つていかなければ危ないんじゃないかという気がしてなりません。史上最高の繁栄を誇つている現代において、精神的な生活が立ち直つていくかという、そうではないんですよ。これは一朝一夕にはできません。

かがみ

学級歌

太田邦子

「山なみめぐるボロ校舎…」 あるクラスの代表者N君が、作詞したものを目を通していたら、こんなことばにぶつかった。早く2年生になって騒いでも階下にひびかない新校舎に入りたいという欲望もあつたに違いない。

そのN君だが、学校新聞に、「……はじめはいやだった仕事だんだんおもしろくなって来て、最後には、ちやんとやれたということが、とても勉強になり、やればできるんだなということがよくわかつた。」というような作文が掲載されていた。友だちに選ばれて引き受けなければならなかつたN君。学級歌の作曲が無事完成して、充実した気持ちになつてくれたと思うと私は、たまらなくうれしく心暖まる思いでいっぱいだった。(常磐中)

第三回教育文化賞記念講演

十一月十五日

岡信中央支店ホール

(文責 金子一元)



教育論文応募これまでの最高

莫L C ことしも奨励賞で協力

市教委が募集していた昭和五十年年度の教育研究論文は、しめ切りの十二月一日までに別表のとおり、これまでの最高二百七十七点の応募があった。

小学校の、それも個人研究がふえたこと、新任一、二年の教師、女教師の進出が顕著だったこと、テーマでは特別活動、学級経営に関するものが四十六点

(表紙) 山本鼎 明治十五年裏町(花崗町)で生まれる。五歳の時、医学の勉強をする父と共に上京。大正から昭和にかけて活躍した洋画家で、パリやモスクワでの見聞が自由画教育論と農民美術運動へと結実していった。また、日本創作版画協会を興した。昭和二十一年十月八日上田市にて没。

【寄贈刊物・資料等】
 ◇ともに生きる教師と子供
 男川小学校

「あたたかい人間関係になつ学級集団の育成」を願い、ひとりひとりの子供をみつめ、確かな授業の創造をとめざした全学級教師の心暖まる実践記録。

を占めたことなどが特筆される傾向としてあげられる。これは最近の各校の自主的、意欲的な現職教育、研究推進活動、さらには各現職教育部の活発な研修活動の反映でもあろう。同時に市内教師たちの専門職としての自覚の現われともみられ、今後の市教育推進の基盤となる成果として関係者の間でよるこばれている。

なお、「教職員の研究論文応募の成果を顕彰し、市学校教育の振興に協力する」ことを目的として、昨年度、教育研究奨励賞基金を創設された岡崎葵ライオンズクラブ(峰沢忠雄会長)は、引き続き本年度も三十万円の基金を寄せられた。

応募論文は一月末までに審査結果を発表し、優秀論文による研究紀要を編集・刊行したのち

A5判、一七二ページ

◇記録のしかた活かしかた
 六名小学校

学力の根幹にかかわる問題とされながら未開発だった「記録」や「ノート」の研究に全校で取り組んだユニークな二年間の実践の足あと。全三冊、B5変形判。

新年度の現職教育総会の席で表彰を行うことになっている。

■相次ぐ各種の受賞、入賞校
 実践、研究の様々な分野で県内の水準を抜き、さらには全国的な評価を得る学校が相次いでいるが、二学期末までの主な受賞、入賞校は次のとおり。

▼創意工夫活動に顕著な功績のあった学校表彰・科学技術庁

官賞 甲山中 甲山中 FBC 秋花壇コンクール 県教育委員会賞 葵中

▼五十年年度保健活動優良校・特選 岡崎小 PTA 活動文部大臣賞 城北中 ソニー理科教育振興資金贈呈計画最優秀校 甲山中 全国学校保健体育優良校 甲山中 愛知県学校保健優良校 岩津小 東海三県学校図書館教育奨励賞総合優秀賞(県知事賞) 藤川小、同資料整備部門優秀賞 甲山中 五十年年度学校環境緑化コンクール県特選 甲山中、同県緑化委員会賞 愛宕小(順序不同)

■第2回市放送教育研究大会
 1月30日(金)会場 愛宕小
 内容 公開授業、全体会(開会行事、研究発表) 分科会協議

講演、閉会行事 研究発表 自ら学ぶ力を育てる放送教育 牧野伊佐夫(三島小)・FM音楽教室の生、継続利用 白井正壮(常磐小)・「おかあさんの勉強室」の学習を通して 大竹久美子・大石伸子 講師 文部省社会教育審議官本家正文先生

■公立 出願 2月20日 学力検査 3月16日 科目 国、数、英(3月29日、国、数) 合格発表 3月22日(同31日) ※()内は定時制

【私立】 出願 2月2日 学力検査 2月24日 発表 2月27日 前後 ※いずれも一部の学校を除く。

※過去5年間の応募状況

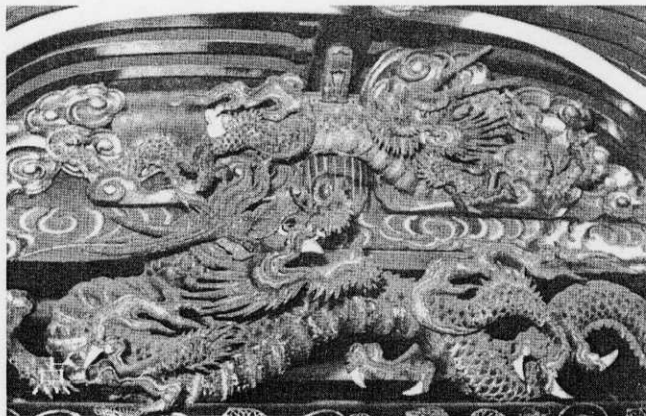
45年—132点 48年—197点
 46年—165点 49年—274点
 47年—227点

昭和50年度教育研究論文応募状況

種別	小学校		中学校		計	
	個人	共同	個人	共同		
教科	国語	26	8	2	1	37
	社会	20	4	5	3	32
	算数・数学	14	3	3	3	23
	理科	13	3	5	3	24
	音楽	6	1	0	0	7
科	工・美術	2	1	0	3	6
	保健体育	8	4	3	3	18
	家庭・技家	2	0	6	3	11
	英語			4	3	7
教科外	道徳	6	0	0	1	7
	特活・学級経営	31	4	6	5	46
	特殊教育	8	1	4	0	13
	保健	6	1	5	1	13
	視聴覚	5	0	0	1	6
	生活指導	6	1	0	0	7
備考	教育全般	11	4	3	2	20
	合	164	35	46	32	277

山車の龍

能見町神明宮は、市内でも歴史が古く、格式もある神社であるが、五月に行われるこの祭礼も、市内三大祭にあげられる程、さかななものである。そして、この祭礼には、見事な山車が繰出されることでも、よく知られている。山車は現在八台あり、それぞれの町内の所有になっている。写真の彫刻の龍は、能見南の山車のものであるが、その力強さ、調和の良さ、色彩の豪華さにおいて、市内でも例を見ない、傑作といえよう。これは約二百年前の作と伝えられている。



所在地 能見神明宮

寸言

▼ 年年歳歳花相似たり。歳歳年年人同じからず。

▼ 新春を迎え心改まる。書初めの白紙の前にした緊張感も、また、すがすがしい。

▼ 正月は子どもの心のふるさと。今年も竜飛、画竜点睛の年。竜頭蛇尾を自戒。自戒。

● カット

杉田 富貴男(葵中)

取材学

- 取材学 加藤 秀俊 ¥三二〇
- 中央公論社
- 日本知識人の思想 松田 道雄 ¥六〇〇
- 筑摩書房
- 日本人の言語表現 金田一 春彦 ¥三九〇
- 講談社現代新書
- 数字の散歩道 矢野 健太郎 ¥四〇〇
- 新潮社
- 歎異抄入門 歎異抄研究会 ¥三二〇
- 教養文庫

- 教育を考えるためにこの四十八冊 朝日新聞社編 ¥五八〇
- 朝日新聞社編
- わが一期一会 井上 靖 ¥一六〇〇
- 毎日新聞社
- 夕 小林 勇 ¥二二〇〇
- 文芸春秋社
- 本のなかの歳月 円地 文子 ¥九八〇
- 新潮社
- 越前一乗谷 水上 勉 ¥八五〇
- 中央公論社



1月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	木	新年交礼会 (市民会館)		17	土	市小中学校書初展 (20日まで美術館)	
2	金			18	日	市民駅伝競走大会 (県営グラウンド)	
3	土			19	月		
4	日			20	火	月報「岡崎の教育」編集委員会 (市役所)	
5	月	官庁ご用始め		21	水	定例校長会	
6	火			22	木	市教育委員学校訪問 (矢南小、福岡小)	
7	水			23	金	玉川通信教育委託生集団実習 (安城・錦町小)	
8	木	第3学期始業式		24	土	特殊教育教育相談 (婦人会館)	
9	金			25	日		
10	土	県交通安全県民大会 (県文化会館)		26	月		
11	日	東西対抗ハンドボール大会 (豊橋)		27	火		
12	月	就学児健康診断開始		28	水		
13	火	臨時校長会 (市役所)		29	木		
14	水	社会教育審議会 (市役所)		30	金	第2回市放送教育研究大会 (愛宕小)	
15	木	成人の日 成人式 (市民会館)		31	土		
16	金	文化財保護委員会 海外研修報告会 (市役所)					